

博物館仮事務所の来訪者 ～野生ほ乳類の訪問～

奥村 みほ子

当館は休館中、事務所を旧寄居養護学校（以下、仮事務所）に移しています。この仮事務所周辺には、野生ほ乳類が毎日のように出没しています。

そこで、その実態を調べるために、仮事務所裏やベランダ、職員用駐車場に続く階段に、日を変えて自動撮影装置（Field Note DUO）を設置しました。すると、複数種の哺乳類が写りました。写ったのはタヌキ、アナグマ、アライグマ、ノウサギ、テン、アカネズミ、ノネコでした。写真は顔の正面からの写真だけでなく後ろ姿もありましたので、皆、行き来しているようです。それぞれ個体差もあり、写真に写ったポーズも様々でした。例えば、カメラをのぞきこむノネコ、フラッシュがまぶしくて目をつぶるタヌキ、走って通り過ぎる下半身のみ写るノウサギ。あるアナグマは挑戦的なのか、目が悪いのか、自動撮影装置に向かってどんどん近付いてきました。

写真に写った哺乳類の中で、アライグマは繁



自動撮影装置の三脚部分を調べているようです



諦めて道なりに進んで行きました

殖力が高く、警戒心が強いいため、ワナで捕獲するのも一苦労です。警戒心が強いせい、アライグマはタヌキに比べて、生息している個体数の割には目撃件数が少なく、交通事故で死ぬことも滅多にありません。仮事務所に移ってから10カ月近く経っていますが、タヌキを目撃した職員は何人かいても、アライグマを目撃した職員はまだいません。しかし、自動撮影装置には、アライグマは何枚も写真に写りました。目撃できないからといって、いないわけではないのです。



階段の下からアナグマがやってきました



階段は写真の右へ曲がりますが、直進してきます



アライグマの特徴的な尻尾の縞模様

この野生動物の来訪については今後、季節展示で詳しく紹介したいと思います。

（おくむら みほこ・学芸員）